



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2021年  
No.1  
事例1

疑義照会・処方医への情報提供

## 名称類似薬の処方間違い



### 事例

#### 【事例の詳細】

患者に初めてルセフィ錠2.5mg 1日1回1錠夕食後が処方された。患者は花粉症であり、鼻水の症状で受診した。2型糖尿病治療薬であるルセフィ錠2.5mgと患者の症状が一致しなかったため、疑義照会を行った結果、ルパフィン錠10mg 1日1回1錠夕食後へ変更になった。

#### 【推定される要因】

医療機関が処方箋を発行する際、ルパフィン錠10mgを入力すべきところ、ルセフィ錠2.5mgを入力したようである。

#### 【薬局での取り組み】

お薬手帳の確認や患者からの聴き取りを必ず実施する。処方内容に疑問が生じたら、些細な内容でも疑義照会を行って、解消する。薬剤に関する正しい情報を把握するため、日々情報収集に努める。



### その他の情報

販売名	ルセフィ錠2.5mg/5mg	ルパフィン錠10mg
有効成分	ルセオグリフロジン水和物	ルパタジンフマル酸塩
薬効分類名	2型糖尿病治療薬	アレルギー性疾患治療薬
通常の用法および用量	1日1回2.5mg 朝食前又は朝食後	1日1回10mg



### 事例のポイント

- 2020年10月に製薬企業から「ルパフィン<sup>®</sup>錠10mg」と「ルセフィ<sup>®</sup>錠2.5mg/5mg」との取り違い注意のお願いが発信された。  
<https://www.pmda.go.jp/files/000237136.pdf>
- 糖尿病治療薬のルセフィ錠2.5mg/5mgはハイリスク薬であり、誤った使用により患者に重大な健康被害を引き起こす恐れがあるため、調剤を行う際は特に注意が必要である。
- 適切な薬物療法を行うためには、患者の薬剤服用歴や現病歴・既往歴、その他必要に応じて聴取した情報等をもとに、処方の妥当性を検討することが重要である。
- 本事業には、調剤する際に調製者がルパフィン錠10mgとルセフィ錠2.5mgを取り違えたヒヤリ・ハット事例も報告されており、調製する際の薬剤取り違いにも注意が必要である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通）FAX：03-5217-0253（直通）  
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。